

2023年6月4日礼拝メッセージ <https://youtu.be/sb5LW4pTxaY>

北九州シオン教会 力丸勝子 師

使徒の働き 2章 1～18, 41～42節 「五旬節の日」 43分 04秒

【新改訳 2017】使徒の働き

- 2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。
- 2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。
- 2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。
- 2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。
- 2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、
- 2:6 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。
- 2:7 彼らは驚き、不思議に思って言った。「見なさい。話しているこの人たちはみな、ガリラヤの人ではないか。
- 2:8 それなのに、私たちそれぞれが生まれた国のことばで話を聞くと、いったいどうしたことか。
- 2:9 私たちは、パルティア人、メディア人、エラム人、またメソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントスとアジア、
- 2:10 フリュギアとパンフィリア、エジプト、クレネに近いリビア地方などに住む者、また滞在中のローマ人で、
- 2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレタ人とアラビア人もいる。それなのに、あの人たちが、私たちのことばで神の大きなみわざを語るのを聞くと、は。」
- 2:12 人々はみな驚き当惑して、「いったい、これはどうしたことか」と言い合った。
- 2:13 だが、「彼らは新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、

嘲る者たちもいた。

- 2:14 ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。
- 2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているわけではありません。
- 2:16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。
- 2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。
- 2:18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。
- 2:41 彼のことばを受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。
- 2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

おはようございます。

今日は6月4日で、本当はペンテコステではありません、先週でした。それで皆さんに大切なこのペンテコステという、教会が誕生したというところのメッセージをぜひ皆さんに再度お伝えしたいと思って、今日あえて先週の分を読ませていただきました。そして特別サービスでたくさん読んでいただいて心から感謝します。事の経緯がよくわかって本当に感謝です。これが今日読んでいただいたところが教会の始まり誕生ですね。で、これは今読んでいただいたように五旬節という区切りとして私たちに教えていただいています。

五旬節これはギリシャ語で 50 という区切りの言葉だそうです。  
イエス様が過ぎ越しの祭りで十字架にかけられるということを宣言されて、その次の日、十字架にお架かりになって葬られました。  
で、よみがえった日曜日の朝イースター、皆さんでお祝いしますが、それから、よみがえって 40 日間弟子と一緒に過ごされました。  
その間イエス様はご自分が生きておられることを証明するために、食事をしたり、会話したり、いろんな所に行っているいろんなことをなさったりして、ご自分が生きておられることを証しされました。  
で 40 日経って人々の見ている前で、イエス様は天に帰って行きました。  
でその時に帰って行かれる時に弟子たちに約束なさいました。  
それは私がいなくなったら私の代わりに  
もう一人の助け主を父に送ってもらいます。  
だから心配しないでその助け主が来るまで待ちなさい、  
と言われたんです。  
でそれで弟子たちはそのことをきっちり守りたいので、エルサレムの中のみんなが集まれるところに行って約 120 名と言われていますが、その人たちと約 10 日間そこで祈りを重ねて行きました。  
私たちどうですかね、10 日間、  
今から来週の何日までずっとここにいて、  
時々ご飯に行って、時々そうやってあとはもうここで祈るという、  
そういう時間を作るとしたら、結構大変なこともあると思います。  
それでみんなはそこにずっといるということよりも、  
自分の時間を割いてみんなと一緒に祈るということ、  
それはただ一つの約束、それはイエス様が私の代わりに私に代わって  
天の父が送ってくださる助け主が来る、  
それを待ちなさいと言われたんです。  
でこれはイエス様が十字架におかかりになる前に、  
弟子たちに語られました。その時それを聞いた弟子たちは 12 人です。

その直後にイスカリオテ・ユダが去って行きましたから、  
本当にこの 12 人の弟子たちがこれを聞いていて、  
約束としてこれを受け止めていった。  
でその弟子たちは 12 人でこれをイエス様の約束をいただいて、  
であと数日しないうちに  
もう本当にこの戦いのような時間が過ぎていっていか  
最後の晩餐をされてからイエス様は一睡もされなかったし、  
弟子たちももちろんそうでした。  
弟子たちは、多くの弟子はもう逃げて行ってしまっていた。  
でこの聖書の中に記されている中に 2 人の弟子の姿がありますが、  
ヨハネはつかまえられて、お前もあのイエスと一緒にだったろう！と言われ  
て、上着をちょっと脱いでつかまえられないように脱いで逃げていった、  
という記事があります。  
もう一人は皆さんよくご存じのペテロです。  
でペテロはイエス様の裁判の場所にまで隠れて  
みんなにあんまり見つからないように行って、  
どんな裁判がされるのか、どういう風にしてこれからなっていくのか、  
それを自分はある面では助けるチャンスがあれば助けたいと思っていた  
に違いないと思いますが、一緒にそこにいたんです。  
で隠れて隠れていたんですけど、  
そうはうまくいかなかった、という記事が出てきます。  
そしてこのペテロは私たちが聖書を読む限り、本当にかわいそうなとい  
うか 3 回もイエス様を知らないと言ってしまった彼の弱さっていうのを  
ここで私たちは皆さん記憶がしっかりあると思います。  
でこの出来事があるって、そしてこの五旬節という 50 日が経って、  
このペンテコステという日が起こりました。  
これはイエス様の約束、すなわち神様がイエスの名によって  
送ってくださる助け主として私たち教会に与えられています。  
じゃあ教会がなかったんですかって言えば、

教会という一つの形は聖書の中では見つけれないですね。  
一つは集会としてあったのはユダヤ教のシナゴグという会堂に集まってくるという習慣・礼拝の場所がありました。  
けれども教会という形でそのシナゴグではないところで集会が始まるということにはなかったんです。  
イエス様はいつも人々の中に入って行って、イエス様は語り、そこで奇跡をなされ、人々を罪から解放するという約束を与え続けておられました。  
ですから1か所に集めて伝道する、福音を語る、というような形を取られませんでした。  
でも何千人もの人に山上の垂訓とか、奇跡が起こった場所でイエス様は神様のことを語り、そしてやがて罪が赦されていくということも語っていかれましたが、  
残念ながらたとえ話で語られたことが多かったので、  
多くの方はこれを理解することが難しかったです。  
で弟子たちが寄ってきて、今のたとえ話はどういうことでしょうか？  
種まきってどういう例え話でしょうか？とこういうふうに  
その解釈を聞いたという人たちがいて、  
その人たちがそれを知るという形になりました。  
でもイエス様はじゃあ伝道なさらなかったのかって言ったら  
そうじゃないですね。ご自身が伝道の御言葉の形として、  
イエス様は人々に語って行かれたということです。  
ですから、愛すること、許すこと、祈ること、主を信じること、  
ということをご自身が毎日それを示していかれた。  
そういう形でイエス様は私たちに、  
ある面では、教会の姿というものをを見せていただいています。  
ところがこの教会の誕生ということについて、これはもう本当に  
大きな大きな周りの人が認める一つの大きな出来事がありました。  
それがこの今読んでいただいた、聖霊が下るといふ出来事でした。

聖霊が下るといふことは、今までに見たことがなかったといふか  
経験したことがなかった。  
でその大きな一つの出来事は  
みんなが集まっている時に、大きな風のような音がした。  
そして舌のような、舌ですからねどうなんでしょうね  
私たち絵に描いてみると  
あの子供たちに描かせたら面白いと思うんですけど  
舌って言ったらこんな形になるとかいろいろあると思いますが  
そういう形ある人はそういう風に見た、そういう形で  
火のように一人一人の頭の上にそれがとどまっていた。  
そしてその人たちが祈る祈りに語る言葉に非常にびっくりさせられた  
といふかそれは  
その当時エルサレムはとても素晴らしい街だったので、多くの人たちが  
知識人とかそういう人たちがいっぱい集ってくるころでした。  
そしてそれはみんなユダヤ教のお祭りということになると  
みんな行っている違う場所から戻ってきて  
そのお祭りに参加するという形でいたので  
たくさん知識人そして有力な人たち、その人たちが  
この五旬節という時に集っていたといふか集まっていた。  
そういう中で言葉が違うということにまずびっくりしたということですね。  
私たちの教会ではよくこれを異言といふ、一つの言葉として使いますが、  
異なる言葉といふ異言ですね。  
であの私たちも聖会とかそういう祈りの場に参加するとき、  
よくこういう光景を目にします。  
本当にこの人が中国語に堪能でもないのに  
本当に流暢な中国語で祈られる姿とか、  
もう全然聞いたこともない言葉で語られるとか  
そういうのをよく見ることがありました。  
で今ここにそれがないかといふれば

そういう形ではないかもしれないけれども  
私たちの中にも同じように聖霊の働きが今ここにありということ  
忘れてはならないと思います。  
で五旬節の日にペンテコステという教会の誕生日に  
この特別な異言の言葉がたくさん語られたりした  
ということがありましたが、  
それは私たちにまた形を変えて  
ある時には必要に応じてそれが現れてきたりすることもあります、  
それでなく、それじゃないと聖霊に満たされているんじゃないと  
決して言えない。  
私たちの日常生活の中で私たちが心に信仰を持って歩んでいる時に  
聖霊なる神様は私たちを助けてくださる。  
同じように導いてくださるということを決して忘れてはならないんです。  
異言がないから異言で話すことがないから  
私には聖霊がありませんとは言い切れません。  
必要に応じて聖霊の働きは私たちのうちにしっかりと働いてくださっている  
ということを心から感謝したいと思います。  
でこの聖霊が私たちに与えられる教会の誕生日。  
これはイエス様が約束してくださったことであるということ  
忘れてはならないんです。  
私たちの教会は今から 73 年前始まりました。  
ある教会は 120 年ですとか門司港の方にある教会は 100 年超えている  
教会があるかと記憶していますが、  
それだけ長い歴史を持って教会が導かれています。  
それぞれに誕生日がありますが、そうした  
神様に導かれて今日まで来るということは本当に素晴らしいことであり、  
これは人のその組織とかそういう力でなかなか進んでいくことが難しい。  
そういう中であって教会は何が中心であり、何をするとともに、  
というそれをしっかりと私たちここに集っている者たちが

心にいつも止めている必要があると思います。  
それは教会は神様の霊の宿られるところ、  
聖霊の宿られるところであるということです。  
ですから皆さん経験されると思いますけど  
この礼拝に集うということは特別なことです。  
なんか歌って楽しかったよ！とかご飯食べて美味しかったよ！  
とかってそういうことがなくても何が満たされますか？  
皆さん、おそらく満足して帰られると思います。  
それはあなたの魂が満たされるからです。  
聖霊によってあなたの魂に本当に平安と愛と  
神様からの守りを与えていただけるから、あーっ！今日も礼拝、  
感謝でしたねって言って、ここから出ていくことができる。  
教会はそれをいつも満たしている場所であるということ  
忘れてはならないんです。  
ですから集会のない時にここに来て祈ったりする時に  
特別な感じを受けます。  
皆さん経験してみられたらいいと思いますが、  
誰一れもない礼拝に来て、ただ一人一番前の席に座って、  
祈られたら本当に特別な感じをしたいと思います。  
ある時は神様と一対一のような感じを受ける時もあります。  
である時はもうやりきれない気持ちでここに来て座った時に、  
祈る言葉がないんですよ。  
なんて言葉に出して祈っていいかわからない、言葉が見つからない。  
でも座った時に全部知ってるよって、  
こういう風に神様の霊が私たちを守ってくださる時があります。  
そして多く、そして慰められてくるということが今までありました。  
ですからぜひそういう経験もしてみてください。  
それはこの教会、すべての教会の中に  
神様の霊がいつもここにいてくださって

私が時々お祈りしますけど、神様がまずここで待ってくださってる。  
あーっ今日来ましたねと、いらっしゃい、いらっしゃい、招いていて、  
あーっ今日も元気で来られて良かったですね。  
とそういう風にして主が待っておられるということ、  
意識するこれは大切なことです。  
主が待っておられるから、私たちも頑張ってお礼に行きましょう。  
なんて言ったらいいんですかね、  
自分の中にも主はおられるんですけど、  
でも礼拝の場におられる主が私に今日何を語ってくださるだろうかって  
いうことを心に求めていくということは本当に大きな恵みだと思います。  
でこの教会の誕生日が毎年違うんですけど、  
過ぎ越しの祭りから 50 日ということで、毎年こう移動していきます。  
今年は最後の 5 月 28 日、その日がペンテコステでした。  
ですから今日から 1 週間前の話ですけど、  
これが教会の大事な誕生日なので、  
あえて 1 週間振り返ってそれを皆さんにお知らせしたいと思いました。  
で、もし今聖書をお持ちでしたら、  
ヨハネの 14 章の 25~27 節、  
「これらのことを、わたしはあなたがたと一緒にいる間に話しました。  
しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊  
は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したす  
べてのことを思い起こさせてくださいます。  
わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わた  
しは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒が  
せてはなりません。ひるんではなりません。」  
これはイエス様が神様に約束していただいて、  
そして送っていただくという助け主です。  
ですから私たちは今はもうイエス様を見ることはありませんし  
声を聞くこともできません。

でこの 11 弟子そして周りの人たちはイエス様の形を  
これぐらいの背の高さで髪の毛の色はこういう色で瞳の色がこういう色  
で皮膚はこういう色でそれから太ってるとか痩せてるとかそういうことも  
全部見ながら一緒に生活して声も聞いておられる。  
だから、ペテロなんかはその声をいつも聞きながら生活していると  
でも私たちはもう 2000 年経ったものとしてそれを聞くこともできないし  
でも私たちにそのイエス様が語ってくださった助け主送られるという  
この約束によって与えられる助け主を私たちが信じることによって  
心の内にしっかりと受け入れることによって  
そのイエス様の形とかそれではなく、  
イエス様の霊的な私たちに与えられる素晴らしい恵みというのを  
与えていただくことができるようになっています。  
そして今も私たちがこの聖霊によって御言葉によって  
私たちの心が満たされ魂が養われていくということ、  
いつもさせていただいています。  
その時にイエス様が私たちに与えてくださるために  
必要な言葉として語られたのは助け主という言葉を使っておられます。  
イエス様の代わりに助け主を送ってもらいますよ、  
そして平安を与えてくださるようお願いしますよと、  
こういう風に語っておられる。  
だから私たちは聖霊なる神様に本当にもっともっと頼って  
そして祈りながら進むということはとても大事なことであり、  
それはイエス様が生活された時になされたようにできる助け主  
もう一人の助け主を送ってもらいますよと語っておられる。  
ですから私たちは目に見ることはできないし耳に聞くことはできない。  
けれども、聖霊なる神様が本当にそばにおられる、守ってくださる、  
ということを経験することができるんです。  
それは聖霊によって、私たちの魂に平安があり、また魂に力が与えられ  
そして魂に本当に喜びが与えられていくということになると思います。

で教会はそういうイエス様の約束によって与えられた  
教会が出発するための大切な聖霊をいただいて出発しました。  
で私たちは今からその聖霊が中心となって教会が出発してから  
2000年足らずです。  
でこの世界の歴史を見た時に教会の歴史を見た時に本当に楽々、  
信仰を持って感謝・感謝と来れた時ってそんなに多くはなかったかな  
結構戦いがあったりしてそういう中で信仰を守ってきたかなって  
いうふうに思うことがあります。  
そしてその最初にこのペンテコステがあったということは、  
五旬節の日、イエス様の過ぎ越しから50日という日が経った  
ということはまだまだそのイエス様のことをいっぱい知ってる人たち  
記憶にいっぱい残ってる人たちがそこにいたということ、  
そしてあーっ、イエス様の代わりに助け主が来るんだっていうことを  
やっぱり多くの人が待ち望んでいた。  
その時にこの聖霊が与えられて、  
そして違った形でイエス様の働きが始められていくという  
この本当に素晴らしい神様の恵みの聖霊が下ってきたということです。  
そしてその中で聖霊によって何が新しくされたかという  
その異言を語るという出来事があったことと、  
それからこの弟子たちの中にあつたその弟子の形が変わったというか  
弟子の中身が変わったって、どう表現したらいいんですかね、  
やっぱりその根底からその魂からその弟子が作り変えられるという  
聖霊によって作り変えられるということが  
この経験として与えられています。それは一番顕著な変えられ方を  
したのが良くも悪くも例を取られますがペテロですね。  
でペテロはイエス様が裁判にかけられる時、最後まで  
もう本当に隠れて隠れて裁判の行方をこうダンボみたいな耳にして、  
その裁判の様子を聞いたかった  
助けたかったという思いでそのイエス様のそばにいたんだけど

結局女中さん親しい女中さんて結構ペテロもイエス様と一緒にいろんな  
ところを旅して回るというか伝道して回っていたのでよく知られていた。  
そしてイエス様の後ろの方についている話ではなくいつも一緒にいて  
イエス様とペテロとヨハネ・ヤコブというこの人たちは人が癒されるため  
に大切な祈りの時にも連れて行かれたし、人が亡くなって蘇る時にもこ  
の人たちは連れて行かれ、  
だからまあ言うならば 弟子たちのうちでは有名人であったわけです。  
このペテロをやっぱりその見てる人は見てるわけでいくらこうフードみた  
いにかぶってみてもやっぱりこれはあなたはあの言葉と同じですねガリ  
ラヤの言葉ですねみたいに言われると、もうそれ以上は弁護できない  
というか、それでその最後にその女中さんがあなたはあのイエスと一緒に  
だったでしょう」って言ったら、いやいや私はあの人知りませんと、2番目  
にまた同じように聞かれた、いやいや全然別人です知りません、3番目  
に聞かれた時に神に誓って言います知りませんと答えた。そしたら鶏が  
泣いたというね、本当にこの場面を私たちは聞かされる時に、  
このペテロと弱いからよって絶対言い切れない。  
もし私だったらもう1回目で言ってるかもしれんし聞かれる前に逃げて  
るかもしれない。本当にペテロがどんなにイエス様のことを心配してあそ  
こまで行ったかということは本当にペテロの素晴らしさだと思うんです。  
でも彼も最後はもう一緒にイエス様と一緒にどうなるかというのをくっつ  
いていけないと思ったので、  
いやあの人を知らない神にかけて誓う知りませんとこう言った。  
そしたらイエス様が最後の食事の時にあなたは私を知らないと言う一つ  
て、それでその後には鶏が鳴くよって言われたその言葉通りが  
このペテロの身の上に実現してきたわけですよ。  
これでペテロはもうその否定しようもない弁護しようもない  
本当にこの打ちのめされるようにしてこの場を逃げていった。  
そして彼はどんなにか悔いたでしょう。どんなにかあの時あそこに行か  
なければよかったと思ったでしょう。あの時あの女中さんが声かけた時

すぐ逃げたら良かったのにとか  
どれだけいろんなことを頭に考えたかわかりません。  
でも彼はそれなりに本当に苦悩しながら  
イエス様に申し訳ない申し訳ないと思いながら  
それでも彼の素晴らしさはイエス様のそばを離れなかったんです。  
十字架の時もその架けられるイエス様の苦しみとそれを  
やっぱりもう見ることができないほどつらかったけどでも遠目にでも  
彼はイエス様のことを見捨ててしまうことができなくて  
イエス様のそばにいた。  
でみんながもう怖くなって1か所に集まって鍵を閉めて  
イエス様がもう十字架にかけられて墓にも葬られてもう終わりだと思っ  
ている時に女の弟子たちがイースターに朝早く行ったらお墓が空っぽでし  
たよと聞かされてペテロは慌ててそのお墓の様子を見に行かなければ  
いられないほど心が騒いでいたということがありました。  
で彼はよみがえられたイエス様にガリラ湖で  
私に何か食べ物はありますかとイエス様から聞かれた時に  
魚を準備したらいいと思ったら、  
イエス様はそれをもう準備してくださっていた。  
弟子たちのために食事を準備してくださっていた。  
その時にペテロが一人になるチャンスがあって、その時にペテロに  
ヨハネの子シモンと言いました。これはペテロという名前とは違う。です  
よね。ヨハネの子シモン、ヨハネさんっていうところの息子さんであるシモ  
ンという、だから彼の一番生まれた時の名前がヨハネの子シモン、  
だから今その弟子として使徒として選ばれていることよりも  
もっと前の彼の名前で呼ばれた。  
あなたは私を愛しますかと、こう聞かれた。  
その時にペテロはもう言葉がなかったんですよね、本当は。  
あの出来事がもうパノラマのようにわーっと来て  
それこそフラッシュバックというんですかね、

もうそのことがわーっと頭に来てもうなんて言葉を発していいかわからな  
いような思いでイエス様に申し訳ない本当にあの時は自分が足りなかつ  
たとかそういう言い訳をすることもできないぐらいに打ちのめされていた  
だからあなたはご存じですと言ったから、  
イエス様は私の羊を飼いなさい。  
また2番目は私の子羊を飼いなさい。  
3番目は私の羊を牧しなさいという風に  
3回、弟子のこのペテロに言われた。  
ペテロは三度言われて1回目はなんとか話したけど  
3回目をもっと辛い思いでその返事をしたという出来事がありました。  
その本当に弱い自分では頑張ろうと思ってイエス様のそばについて行っ  
てたペテロが本当に自分の弱さに打ちのめされてしまった。  
その弱さを持っているペテロがこの聖霊のバプテスマが下った時、  
五旬節の日に彼は変えられたんです。どういう風に変えられたかとい  
うと、彼はイエス様のことをもう誰よりも先に証しする宣言するそういう人  
になったわけです。  
本当はそれが怖くて逃げて行っていたわけなのに  
イエス様のことを堂々と人々の前で。  
どうですか今吉武さんがちょっと読み始めてくださったんですけど  
本当は最後まで読んでもらったらペテロの説教がよくわかったかなと思  
ったんですけど。  
本当に彼がそれだけのメッセージを人々に伝えるということが、  
どこから来たかっていう本当に不思議な力がペテロに与えられました。  
でペテロはそれから本当に不思議な神様の働きをしていく。  
多くの人々に福音を伝えていく  
ユダヤ人たちに伝えていく役割を担っていく人に変えられていきました。  
最後はローマで殉教の死を遂げたと言われていますが、  
彼は最後までイエス様の証人として立っていったという。  
そういう素晴らしい、変えられていく姿を私たちは見ることができます。

で教会が始まったその最初にメッセージしたペテロのメッセージによって多くの人が改めたんです。  
私たちが本当に罪があった良くなかったってことを悔い改めた人たちがその証しとして洗礼を受けたんですね。  
でそれがその日だけで3000人です。大変なことですよ。  
もし12弟子だけで洗礼式を授けるとしたら何時間かかりますか？  
大変ですよ。だけどその弟子たちと同じような働きができる弟子たちがそれをカバーしていったんだと思いますが、3000人の人が加わった。  
そしてともに集い食事をし、聖餐式が主だったようですね。  
聖餐式をしていつも神様に感謝を捧げ賛美を捧げて一箇所に集まっていた。  
で聖書の最後の方にはその教会がどのように誕生して周りの人からどのように見られたかということが書いてありますが、それは周りの人にも認められたという形で教会が誕生しました。  
決して反発されたり拒否されたりそういう形ではなく本当に当時としては何事が起こったかという出来事の中に周りの人々がこれを受け入れていくことができるようにされていた。  
これが教会の始まりです。

で私たちの教会もその始まりの教会からずっと引き継いでその聖霊の働きによって今日までここまで来ることができました。  
で私たちはまだ70数年という時ですけど、私たち一人ひとりにはある人には長かったしある人にはまだ来始めて少ないですよみたいな人もいますかと思いますが、  
教会は何のためにここに置かれたかっていうことはそれはペテロが話したようにイエス様の十字架と蘇りそして今も生きておられるということを伝えるために教会はあるんです。  
ですから、罪があるということを人々に伝える、イエス様の十字架がそれを赦してくださるということを伝える、ということがとても大事な役割

そしてもう一つはこのイエス様が死んで  
というか、蘇らなくてお墓があって、聖地旅行に行った時にお墓がありませんって表示があったらどうですか？がっかりでしょうね。  
でもイエス様が葬られた墓はあります。  
アリマタヤのヨセフさんというお金持ちの人が自分のためにお墓を準備してあった。  
そこにイエス様を一時期葬られた  
何時間か葬られたということはありませんが、  
イエス様のお墓はありません。本当にこの天に帰っていった姿を当時120名以上いた人たちは見てるわけです。  
そして天に帰っていく姿を見て、あなた方は同じようにして来られるイエス様を待ち望みなさい、と語っておられます。  
やがて私たちのところに来られるんです。でもそれがいつかわかりません。今日明日かっていうかねどれぐらい先かというのは本当にわかりません。  
イエス様もおっしゃったようにその日はわかりません。  
神様が父なる神が決めておられますと語っておられます。  
ですから私たちは先々のことを心配して不安がってというよりも今日私たちに与えてくださる助け主として来てくださる聖霊の力をいただきながら、本当に平安に過ごさせていただきたいと思うのと、  
もう一つはこの教会の中心である  
目には見えませんがこの教会の一番大事な中心である  
聖霊なる神様にもっともっと頼って、  
そして祈っていくものでありたいと心から願っています。  
その大切なことは決して人が救われるのは、私たちの説得とか私たちのテクニックとかそういうもので人は救われません。  
でも神様の働き聖霊なる神様の働きによって人は救われていく。  
このペテロのメッセージによって3000人の人が救われていくという素晴らしい業を見ることができました。



で私たちはこの教会が今そういうふうになったら大変です。でしょう？  
3000 人もの人がここに来るなんて考えられませんよね。  
だから私たちに与えられているこの教会に与えられている  
救われなければならない人たちのことをやっぱり祈って  
そして私たちに与えられている証しをするチャンスを用いて  
いただきたいなとこういうふうに願っています。  
で私たちはこの流れの中で、今日も礼拝することができました。  
司会者もおっしゃってますけど 神様が私たちの中心にいてくださって  
一人一人にその聖霊なる神様が働いてくださっている。  
そして私たちがこれから 1 週間出て行って働く時に  
その聖霊なる神様も一緒に行ってくださいるんです。  
あなただけ一人で行きなさい頑張っただけでこれはないんですね。  
神様は私たちと一緒に歩いてくださる、だからすごく辛い時、  
友達がなくなって本当に辛い思いをしている時、  
私たちは気がつきませんが主はそばにおられるんです。  
慰めてくださっているんです。  
そういう気がつかなくても気がついていても気がつかなくても  
主は私たちのそばにおられる、平安をあなた方に与えますよ、ある聖書の  
箇所では孤児にはしませんよ一人にはしませんよって。  
今本当に一人でいる人たちのことをニュースとかで聞くことができますが  
イエス様がそばにおってくださったなら  
平安だったのになーと思うこともあります。  
本当に主が私たちに与えてくださっている今もここで働いていてくださる  
助け主聖霊なる神様を、もっともっと頼っていきましょう。  
そしてもっともっと毎日の生活に経験として自分の中に  
いつも意識していついていただきたいと思います。  
腹が立った時、もう頭に来るとかねいうことがあります、  
その時に私たちはいろんなものにぶつけないで、  
ぶつけていきたくありませんが

神様何でこんなことが起こるんでしょうか？  
私なんかしょっちゅうそういうことが多くて  
一番文句言う人の筆頭に挙げられるかもしれないんですけど、  
神様に祈りながら訴えながら、ある時はどう言ったらいいですかね。  
神様に苦情をもう一番のように申し立てながらというそういう中で  
主は私たちに必要なことを与えてくださり、  
いろんな状況があっても守ってくださること、  
本当に感謝したいと思います。  
そして私たちは聖霊をいただいた時、聖霊が私たちの中に住んでくださ  
った時、変えられるということ、  
このペテロの姿をとって教えていただきたいと思います。  
人はそのままでもいいんだって言うんじゃないで、  
私たちも変えていただいて、  
もう少し証しができるようなそういうクリスチャンにさせていただきたいな  
というふうに思えば幸せだなと思っています。  
でそういう教会の中に、  
そういうクリスチャンたちが起こされていって用いられていくと、  
教会にも新しい方々が導かれてくるということになって、きっと、  
この教会も新しく救われる方々が起こされていくと思います。  
まず私たちが大切なことは聖霊の力を神様ください！  
私に満たしてください！  
そして私を通して神様のことを伝えることができるように  
まず私の家族、この家族が減っていくのを黙って見ていいですか？  
という本当にそれが私たちに与えられている家族として大切な家族とし  
て与えられているこの家族の救いのためにまず祈っていきたいんです。  
そして私たちが存在しているいろんなところに出ていきますが、そういう  
中で神様のこういう証しをすることができるように  
用いていただきたいと思います。  
でまず求めなければ与えられません。

聖書に書いてありますね。求めなさいそうすれば与えられます。  
私には要りませんっていう人には与えられないと思いますが、  
私にもください！私にもその力を与えてください！と願う人には  
神様は与えてくださいます。  
そのような教会として、お互いのために祈り合う、お互いの心の状態の  
ために祈り合う、と同時に私自身が変わられますようにと祈っていくこと  
をこの1週間やってみたらどうでしょうか？  
教会の誕生日1週間遅れましたけどお祝いしながら、私たちここに集う  
ものとしてこれから先、導かれていきたいと切に願っています。

お祈りします。  
天のお父様、心から御名を崇めて賛美をいたします。  
今日は1週間遅れましたが、ペンテコステ、教会が誕生した  
その出来事のほんの一部を学ぶことができました。  
イエス様は私の代わりに助け主をあなた方に送りますと約束されました。  
その約束通り教会が誕生しました。そしてその教会の一つ一つの歴史  
を通して今日私たちのところにもそれが届いていますことを感謝します。  
その聖霊の恵みをいただく一つの器として  
今日私もここにいますことを感謝します。  
どうか聖霊なる神様、私たち一人ひとりに満たして下さって、  
おひとりびとりを本当に豊かに祝福し、変えてください。  
そしてあなたの愛をあなたの恵みを伝えるとして滅びに急いでいる人た  
ちにそのことを伝えることができるようにイエス様の愛を私たちのうちに  
豊かに満たして下さるよう切にお願いします。  
まず今日から1週間家族の救いのために祈らせてください。  
みんな家族が揃って永遠の御国に行くことができるように、  
主よお願いをいたします。  
おひとりびとりの上に神様今あなたの霊をお一人一人の上に注ぎ、  
またお一人一人が強くされ、平安を持って

導かれることを信じて感謝します。  
あなたが守ってくださるおひとりびとりにあることを  
あなたが愛しておられるおひとりびとりにあることを心から感謝して  
イエス・キリストの御名によってお祈り致します。  
アーメン。

今から心を合わせて祈りましょう。  
その一つのため、  
神様、今日私の心のうちに聖霊を満たしてください。  
この一つのこのために短くお祈りしましょう。

